

平成 29 年度

北海道 150 年事業実行委員会 第 1 回役員会 議事録

日時：平成 29 年 9 月 1 日（月）11:00～12:10

場所：ホテル札幌ガーデンパレス 2階 丹頂・白鳥

【出席者】

<役 員>

高橋はるみ会長（北海道知事）、名和豊春会長代行（北海道大学総長）、岩田副会長（北海道商工会議所連合会会頭）ほか計 25 名出席（出席 13 名、代理出席 12 名）、欠席 7 名

<事務局>

（北海道経済連合会）猪狩総括部長

（北海道商工会議所連合会）菊嶋専務理事、守山事務局長

（北海道）窪田副知事、佐藤総合政策部長、赤塚北海道 150 年事業室長、岩崎参事、

今田主幹、丹野主幹、早田主査、武藤主査

● 佐藤総合政策部長（事務局）

定刻となりましたので、「平成 29 年度 北海道 150 年事業実行委員会 第 1 回役員会」を開会いたします。

事務局を務めます、私、北海道庁総合政策部の佐藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。はじめに、高橋会長からご挨拶を申し上げます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

道知事の高橋でございます。本日は、大変お忙しい中、委員の皆様方におかれましては、こうやっでご参集いただきましたこと、心から感謝を申し上げます。

開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

来年 2018 年、いよいよ、北海道命名から 150 年目を迎えるところでございます。皆様方には、記念事業の実施に向けて、予算や事業計画の審議、あるいは PR などについてのご尽力を賜っておりますこと、改めてお礼申し上げます。

この間、55 を数える企業・団体の皆様方に「パートナー」として事業へご参画いただくとともに、今年、そして来年に向け、道民の皆様方が様々な形で取り組む「北海道みらい事業」、そして「応援企画」が、合わせて 100 件を超えるなど、日に日に機運が高まっていると認識するものであります。

本日は、こうした、これまでの取組状況をご報告申し上げますとともに、役員の皆様から様々な企画やご提案をいただき、道民の皆様、特に、将来の北海道を担う子どもたちにとって心に残る記念事業となるよう、取組全体を加速してまいりたいと考えております。

皆様方におかれましては、実行委員会の運営に対する更なるお力添えとともに、北海道 150 年を契機に、先人から受け継いだ財産の継承や、道内各地の多様な魅力の発信といった事業の理念を実現し

ていくため、それぞれのお立場から、引き続き、ご参画、ご尽力を賜りますよう心からお願いを申し上げます。ありがとうございました。

● 佐藤総合政策部長（事務局）

本日は、役員会メンバー33機関のうち、役員ご本人及び代理でのご出席の方が26機関となっており、実行委員会規約第10条に定める役員会開会の要件を満たしていることをご報告申し上げます。

役員会の議長は、実行委員会規約第10条第2項により、会長が務めることとなっております。以降の議事進行は、高橋会長にお願いいたします。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

それでは、規定に基づきまして、私が議事を進行させていただきます。はじめに、議事の1、「北海道150年事業の実施状況」について、事務局から説明願います。

● 赤塚北海道150年事業室長（事務局）

北海道150年事業室の赤塚と申します。どうぞよろしくお願いたします。私から、北海道150年事業の実施状況について、資料1、本日同じものをパワーポイントで用意してございます。こちらで説明をさせていただきます。本日、2つの大きな括りでご説明をいたします。最初、確認ということもございますので、事業の枠組について、少しポイントをご説明させていただきます。その後、主体別ということで、実行委員会構成員、民間企業の方々のお取り組み状況について、ご説明させていただきます。

まず最初に、150年事業の理念ですが、「みらいへつなぐ、みんなでつなぐ」というキーワードの下に、北海道独自の歴史、先人の偉業を振り返るということと、命名150年目という節目の年をみんなでお祝いするという、共生社会を目指して、次の時代の北海道づくりに継承するという、また北海道の価値を国内外に発信することで、様々な交流を広げていくことを基本理念としております。こうした基本理念の下、151年目の新たな一歩を踏み出すといったテーマですとか、未来志向という基本姿勢を定めまして、取組を進めているところでございます。

事業の参画・協力体制についてですが、本日開催しております役員会の下で、実行委員会が中心となりますが、一方、企業や、個人、団体、NPOの方等も事業に参画いただくということで、みらいメンバーシップという制度、仕組みを設けております。北海道全体で進めていくという体制にしております。また、みらいメンバーシップの中で、企業、団体の方をパートナーとして登録しておりますけれども、このパートナーの方々が行う事業につきましては、この実行委員会のプロジェクトということで位置付けをしているところでございます。

事業の構成でございます。まず、3つに大きく分かれておりまして、実行委員会が主催もしくは主導となって実施をするものとして、左側の上段にあります「記念セレモニー」を行います。記念セレモニーですが、来年夏を予定しております「北海道150年ウィーク」の各種の取組と記念式典を、実行委員会が中心となって行っていきます。また、道民や企業・団体の皆様が様々な地域で自主的に行っていただく事業を「北海道みらい事業・応援企画」として位置付けております。本番の来年に実施いただく事業を「みらい事業」、また今年、PRを中心に実施していただく事業を「応援企画」と位置付けております。3つめが、北海道150年を契機に継続的に取り組む施策ということで、左側の四角の枠になりますが、例えば現在、道で事務を進めております新北海道史の編さんといった、次に繋が

る取組ということで、この3つの構成としてございます。それぞれで実施をしていくということで150年を盛り上げていきます。

スケジュールでございます。年内は実行委員会での事業全体のPRが中心になると思いますが、カウントダウンイベント等を実施していきます。また先ほど申し上げた民間の方々に、応援企画ということで事業を進めていただいております。詳細については、後ほどまた触れさせていただきます。

次が、委員会の当初予算ということで、書面開催ではありましたが総会で審議、決定いただいた内容となっております。

続きまして、取組状況について、主体別にご報告させていただきます。まず、来年8月5日に行う記念式典でございます。これは実行委員会が主催となります。8月5日、北海きたえーるにて、「先人に学び、未来につなぐ」というテーマを設けまして、こうしたテーマを実感できる演目を実行委員会の下に設置しておりますワーキングチームにて、現在検討中であります。

具体的には開催内容案のところにあります。例えば、歴史・文化という視点におきましては、共生社会に向けて、歴史の発信といった視点で、北海道の開拓の様子やアイヌの人々との暮らし、また地域の伝承芸能などの踊りや映像での紹介、また子どもの躍動では、例えばダンスやスポーツなどによるパフォーマンスなどの他、未来ということで、若い世代を対象とした参加型の演目などを企画しております。

こちらがメインアリーナを使った式典のイメージでございます。これがステージイメージということで掲載させていただいております。また、メインアリーナでの演目の他に、関連する展示なども検討しております。例えばサブアリーナやホワイエ等も活用した全体での式典を検討しております。

次は「北海道150年ウィーク」の取組についてでございます。これは8月5日の記念式典を前後しまして、7月14日をオープニングの日と定めております。そこから約1ヶ月間、各種の記念行事等を様々なテーマで実施をすることとしてございます。ここにテーマが10本ほどありますが、開催内容案として整理をしております。これにつきましては、実行委員会の構成団体の事業やパートナーの事業として、この時期に現段階で実施をしていただく予定となっているものを掲げてございます。パートナー事業等につきましては、今月いっぱいを目途に募集中でありまして、更なる周知・募集に努め、内容の充実を図ってまいります。また、実行委員会として、初日のオープニング、またエンディングのイベントを行う予定としており、現在検討中であります。なお、エンディングの日につきましましては、実行委員会構成団体に関わります重要な記念日やパートナーが行うイベントの開催日を勘案し、今後設定いたします。式典、150年ウィークにつきましては、こうした構成で準備を進めております。委員の皆様には、内容の確認、ご了解をいただきたいと思っております。

続きまして、年内のPR事業ということで少しご紹介させていただきます。北海道命名150年をキーワードに、太古から現代までの北海道の様々な出来事、人物など、おおよそ100シーンを約3分の映像にまとめたPR動画を作成いたしまして、各種PRに使ってございます。構成団体の役員の皆様にも是非ご活用いただければと思っております。PR動画につきましては、私の説明の後、実際にご覧いただきます。

また、PR事業ということで、プロスポーツチームにご協力いただきまして、ユニフォームを作っております。また、この7月～8月、それぞれPRイベントを実施して参りました。特に、150日前カウントダウンイベントということで、来年本番2018年1月1日を起算としまして、先月、8月5日がちょうど150日前ということで、吉本興業さんと連携しまして、「みんなのウィーク」というイベントの中で、150年事業のPRを実施いたしました。当日はPR動画の上映や、タカアンドトシさんのお2

人によるPR等を実施してございます。また、この模様につきましては道内のテレビニュース、また吉本興業ということもございまして、関西でのテレビ放送でも取り上げられたということで、PR効果があったものと感じてございます。これがPRツールでございます。

今後のPRイベントについてですが、まず9月23日、ちょうど1月1日から起算して100日前となりますことから、サッポロオータムフェストにてステージイベントを行います。そのほか、次の週の東京の「北海道フェア in 代々木」でもブース出展などで道外にもPRをしてまいります。そのほか、パートナーさんのお力をいただきまして、連携してPRしていくこととしているところでございます。

年が明けまして1月から3月、これはキックオフイベントとして実施をするものでございます。札幌モーターショー、さっぽろ雪まつりの会場をお借りして連携してステージイベントを実施していきます。また、札幌のみならず道内のPRキャラバンと言うことで、道内6圏域でもPRをしてまいります。合わせて、三重県松阪市と縁が深いものですから、松浦武四郎まつりに参画するなど、三重県とも連携をして進めていきたいと考えてございます。

続きまして、実行委員会の構成員による関連事業として、一つは、北海道遺産協議会様によります「北海道遺産の追加選定」ということで、150年を契機に現在実施を進めていただいております。もう1点、北海道が北大など、道内の大学のご協力をいただきまして、「子ども未来・夢キャンパス」と称しまして、子どもたちに夢を与えて、学ぶ楽しさを伝えるイベントの企画をしております。

ここからは民間の取組になります。パートナーとして、現在、55の企業・団体の方がPRや関連企画として、いろいろと取組を進めていただいております。ここに、パートナー企業55社のロゴを掲載してございます。マスコミ、航空会社をはじめ、様々な業種の企業・団体の方からご協力をいただいております。今年はPR事業が中心で、一番直近で言いますと、国分北海道さんが、北海道150年記念シールとして、ロゴマーク、こちらを独自に付けていただいて、10月下旬から商品の発売をするということで150年のPRの協力をいただくこととしております。

もう一つ、道民の方、企業、市町村、団体が主体となって行う事業として、「みらい事業・応援企画」の枠組みを設けております。これらは、今年、PR事業ということで、ポスターに150年のロゴマークを付けていただいたり、ブースを設置させていただいたり、いろいろと取組を進めてございます。

最後に、実行委員会構成員様に3点ほどお願いをしたいと考えてございます。まず1点目、150年関連事業ということで、構成団体の皆様にも来年に向けて150年をキーワードにした事業の企画、実施をお願いできればと考えてございます。2点目が、協力・協賛ということで、まずは、150年事業のPRもさらにお願いをしたいということと、それぞれみらい事業ですとか、来年のウィークの個別事業への側面的なご協力もお願いをしたいということです。3点目は、来年充実した取組となりますよう、財源の確保が必要と考えております。寄附ですとか協賛につきまして、構成団体内の企業等の皆様へ、こういった枠組みもありますということをお伝えいただきたいと思っております。私からの説明は以上であります。

先ほど触れました3分間のPR動画をご覧いただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(PR動画上映)

説明等は以上でございます。どうもありがとうございました。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。ただいま説明があった内容につきまして、ご質問等があれば挙手をお願いいたします。（挙手なし）よろしいでしょうか。

それでは、ご質問がないようであれば、次の議事に進ませさせていただきます。

次に、議事の2「実行委員会構成員における取組等」についてであります。皆様方から、北海道150年事業に関して、これまでのお取り組みの状況や、今後の取組状況など、ご発言をいただきたいと思っております。よろしければ、私のほうから指名をさせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

それではまず、役員ご本人のご出席を賜っております皆様方から順次よろしくお願いたします。

お隣におられる北大の名和総長、よろしくお願いたします。

● 北海道大学 名和総長

北大総長の名和でございます。資料の2に基づきまして、今、実行委員会構成員で行っている取組について、本学が行っている内容についてご説明したいと思っております。そちらの資料のナンバーの1を見ていただきたいと思っておりますが、先ほども説明ございましたが、北海道150の「子ども未来・夢キャンパス」ということで、これをうちの方で実行していきたいというふうに考えております。特に、その下の方に、取組の状況の方で書いてございますが、高等教育推進機構オープンエデュケーションセンターの方でございまして、科学技術のコミュニケーション教育研究部門というのがございます。私たちはCo-Stepと言っているのですが、そちらの方が昔からサイエンスカフェといったものやってみて、子どもたちに、技術とかそういったものが面白いよというものを伝えておまして、そういった夢を伝えていきたいな、ということをしていきたいと思っております。

2番目ですが、北海道は、アメリカのマサチューセッツ州と姉妹提携していますが、アメリカの州というのは、例えば日本と姉妹提携を行う場合に、他の県とできないということ、実は北海道としかできないということになってございます。そういった意味で、北海道150年を記念するということ、できればうちのほうに、大変お忙しいんですが（先生をお呼びしたい）。マサチューセッツというとMITという大学がありまして、そこにメディアラボというのがあります。テレビでよく伊藤（穰一先生）という所長が出ていますと思っておりますが、そこに石井（裕）先生というのがいらっしゃいます。実はその方が北海道大学を卒業している方でございます。日程の都合でなかなか来られるかわからないのですが、今交渉中でございます。来ていただきますと、向こうのメディアラボでやってるような内容の紹介をしていただいて、道内のIT企業の方とか、できれば若い世代の人たちに、最近のAIですとか人工知能ですとか、そういったものを使ってどういったことがなされているのか、ということをご紹介できればというようなことを考えているところです。簡単ではございますが、以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございます。総長、大いに期待いたします。MITとの連携、すばらしいと思っております。

それでは次に、道商連の岩田会頭、よろしくお願いたします。

● 北海道商工会議所連合会 岩田会頭

道商連の岩田でございます。道商連、並びに札幌商工会議所といたしまして、二つの事業を計画しております。

まず一つは、北海道の名付け親でもあります松浦武四郎を題材にしまして、北海道の歴史を学ぶ事を

目的としたミュージカル開催をしたいと考えております。このミュージカルは、松浦武四郎の視点を通じて、アイヌ文化を知り、共に生きていく、このことの大切さを伝えるものという内容であります。特に、これから北海道を担っていく子どもたちを始め、道民に幅広く鑑賞していただいて北海道アイヌ文化の理解を深めていければと考えております。また、この舞台は、北海道 150 年事業に留まらず、2020 年に白老に開設されます「民族共生象徴空間」へのマイルストーンとしても位置づけております。ミュージカルの実施に当たりましては、道庁はじめ、関係自治体、各種団体などを網羅した実行委員会を組織し、オール北海道体制で実施することが必要と考えております。

また、もう一つは、東京・池袋のサンシャインシティにおきまして、北海道の食と観光、そして文化を大々的にアピールするイベントです。全館で、「まるごと北海道大豊穰祭 in サンシャインシティ」を開催いたします。実施時期につきましては、平成 30 年 10 月、会場は池袋サンシャインシティを予定しておりますが、展示ホールあるいはレストランもすべて道産品というようなことを含めて、全館と連動して北海道の魅力を大々的に広く発信する事業にしていきたいと考えております。この事業につきましても、農業・水産団体そして行政が一体となって実行委員会による実施を想定しております。北海道 150 年を機にスタートをし、今後、首都圏の皆様が毎年楽しみにしていただける恒例のイベントになるよう、継続開催を視野に育て上げていきたいと考えております。以上、二つであります。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございます。首都圏へのアピールも、心から期待させていただきます。
次は、商工会連合会の荒尾会長、よろしいでしょうか。

● 北海道商工会連合会 荒尾会長

連合会の荒尾でございます。北海道に 152 の商工会があり、それぞれの地域経済や地域の振興の一翼を担っているところであります。当会におきましても、150 年事業の基本方針の趣旨を踏まえて、傘下の商工会に対して「北海道みらい事業」への参画や、支援の呼びかけを行うとともに、各商工会で開催しております各種イベントを通じた具体的な PR や、当会の発行している広報誌によるキャンペーンを行いながら、会員企業に情報を発信して参りたいと考えています。今後とも、青年部や女性部などによる事業を含めて、さらにどのような取組ができるか検討を進めて参りたいと考えております。以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、よろしく願いいたします。全道に広がりがある事業をよろしく願いいたします。
それでは、北海道林業協会並びに北海道森林組合連合会の会長である阿部会長、よろしく願いいたします。

● 北海道林業協会・北海道森林組合連合会 阿部会長

ご紹介いただきました、北海道林業協会、併せて北海道森林組合連合会の阿部でございます。林業団体としては、参考資料 2 に記載しておりますが、森林・林業は生活や産業の発展と密接に関わり今日に至っており、特に戦後、荒廃した経済社会の復興期や高度成長などの激動期を通じて果たしてきた役割は極めて大きなものがあつたと考えております。今般の 150 年事業に当たっては、こうした中で、全道に 80 ある森林組合に対し、今後それぞれが実施する各種研修会やイベント等で、来年が北海道命名 150

年であるとの呼びかけをしていくとともに、イベント等へ積極的に参加していくように、呼びかけて参りたいと思います。また併せて、森林・林業関係のイベントには、北海道 150 年事業の冠を付けることを検討しております。

さらに、この北海道 150 年事業と符合したものになりましたが、北海道森林組合連合会の事務所建て替えについて、現在実施設計に入っており、明年春の着工、年末の竣工予定となっております。建物自体を「道産木材のショールーム」とのコンセプトとしております。そして、林業会館の建て替えについても、記載のとおり検討段階ではありますが、早ければ明年、会館建設への着手も予定されます。これら建て替えに関する件についても、先達のたゆまぬ森林造成の努力によって、カラマツ・トドマツなどの、人工林資源が現在の北海道林業を担う貴重な資源として大きく開花しようとしているとともに、私たちが連綿とつながる歴史の中にあることを改めて思い起こさせてくれ、これもまた北海道 150 年事業にふさわしいものと考えております。以上であります。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございました。森林王国北海道でありますので、子どもたちの記憶に残るような事業をよろしく願いいたします。

次は、北海道アイヌ協会 加藤理事長、よろしく願いをいたします。

● 北海道アイヌ協会 加藤理事長

イランカラマテ。北海道、この 150 年事業の検討会に参加させていただきますと同時に、この事業の企画を見まして、本当に、心から、私としてはお礼を申し上げたいと思います。

先日、7月30日に、札幌の墓地からの盗掘の関係でドイツへ行き、138年ぶりにアイヌの遺骨の返還式に参加させていただきました。盗掘されてどんなにか涙して眠っていたかという、その思いでありました。ドイツの大統領の言葉に「過去に目を閉ざす者は現在には盲目になる」という言葉がありますが、この言葉と、海外から初めて返還ということがつながりまして、このドイツの代表は「このことを機会にして、日本政府も、アイヌの格差是正について期待する」と、そういう言葉を残しておりました。私としては、150年前に武四郎が名付けた北海道の地名や伝承は、人を引き寄せるとしており、これから始まる新しい旅へ踏み出すための地図でありたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。以上です、ありがとうございました。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。ドイツ来訪お疲れ様でありました。私どもが企画をし、関係のパートナーの皆様方が考えている全ての 150 年事業、アイヌ協会の皆様方としっかり連携しながらやっていかなければならないと思いますので、これからもご理解ご協力よろしく願いいたします。

次は、北海道青少年育成協会 伊藤会長、よろしく願いをいたします。

● 北海道青少年育成協会 伊藤会長

はい、育成協会でございます。当協会でございますが、全道各地域におきまして、子どもたちや若者の健全な育成を図るための活動を行っている団体、あるいはグループに対しまして、各種の支援や啓発事業を行っている団体でございます。来年度に向けましては、今後、予算の検討に当たって、北海道 150 年とタイアップした事業を計画し、北海道みらい事業として登録していくことなどの対応を検討してお

ります。また、今年度におきましても、実施事業の中で、いただいておりますPR動画を活用するなどして、機運の醸成に努めて参りたいと考えております。以上です。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

ありがとうございました。150年事業の今、青少年の皆さん方が200年の北海道の時期を支える人たちになるわけであります。是非、積極的なご提案、また事業実施、よろしく願いいたします。

次は、北海道中小企業家同友会 守代表理事、よろしくお願いします。

● **北海道中小企業家同友会 守代表理事**

150年ということで、本当に、北海道の歴史がいろいろと困難を乗り越えてきたのだなとあらためて思うわけですが、私ども6千社の会員を有しており、来年の10月19日、20日と、毎年、全道経営者教育研究集会というのがありまして、それに向けて今準備をしているわけでありますけれども、150年という年を、そういう意味では使わせていただくかなと思っております。

私、ちょっと提案をしたいのですけれども、せっかく北海道（150年）を道民の皆さんに知らしめるということですので、私は各振興局の範囲で、我が振興局地域の150年の歴史と、これから進めていく道、というようなことでのシンポジウムをやりながら、道民に知らしめていくというようなことを考えてみてはどうかと思って聞いておりました。

それから、「150年ウィーク」と書いてありますけれども、「北海道150年ウィーク」ということでパッと聞くと、私は「ウィーク」なのか、「マンス」なのか。ということは、この期間に合わせないで150年というような冠を使ってやりたいという人もあろうかと思しますので、そういう意味で、今日胸に付けてきたピンバッジを「旗」にしてもらって、行事に使うシンボルマークなど、150年の記念旗だよ、としてはどうか。

ただ私は、9月29日までに150年の事業募集を締め切るということですが、もう少し先に延ばして、各地、各団体からあがるであろう150年の企画をまとめて、どのようなものが全道で行われるのか、ということを知るとのことと、それからもう一つは、その集めた150年に向けて行う行事を、せっかくつくったシンボルマークを旗にして、壁に貼りながら「150年だよ」というような感じにならないかなと思っておりました。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

旗というか、のぼりでも良いかもしれませんね。

● **北海道中小企業家同友会 守代表理事**

ただね、看板に150年記念というようなことで書くでしょうから、その前に、この（ロゴマークの）旗が貼ってあればどうかと思って。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

守代表理事から、いくつか貴重なご提案、それからご質問等ございましたが、佐藤部長どうですか。

● **佐藤総合政策部長（事務局）**

まず、各振興局単位で行うシンポジウムというのは、我々の方でもそういうのがあるべきだということで、今、各振興局でいろいろと企画をしています。まだご紹介に至らない中で、今日のものにはなっておりませんが、全道各地でこの事業を盛り上げていくということ、その一つのキーになる場所として各振興局というのを考えておりますので、それぞれの振興局地域においてそれぞれの団体と相談をしながら、地域の特色を生かした、いろいろなシンポジウムなどを進めていきたいと考えております。

150年の旗につきましては、いろいろと検討させていただきたいと考えております。

期限は、そもそも150年事業は1月1日から12月31日までの来年1年間をその期限としております。どこかに盛り上がりを持たせるという意味で記念ウィークを作っておりますが、年間を通して事業を行うこととしております。

● 赤塚北海道150年事業室長（事務局）

みらい事業、パートナー事業の募集時期を今月中とお話いたしました。やはり自治体さんの事業ですと、予算がかかりますと来年度の予算となりますので、臨機応変に、延ばしていきたいと考えております。また、別途、ホームページ等でご紹介をさせていただきます。

● 北海道中小企業家同友会 守代表理事

私のイメージなんですけど、各振興局でやってもらうということで、おそらく各地それぞれの歴史背景があるわけで。私は伊達出身ですから、仙台伊達藩の流れがあるわけですが、私は、振興局長またはそれに準じる人が、「この150年というのはこういう歴史で、北海道はこう行くんだよ」ということが、全振興局長さんなり、それに準じる人が、まず前もって話をし、それからシンポジウムに入っていか、地域の企画を考えていくということにして、知事が全部行くわけにはいきませんから、そういうようなことを振興局長に話をしてもらって、道民全体が、「この150年というのはこういうことで、今回こういうカタチで今後進めていくんだよ」ということを思って言いました。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

わかりました。14人の振興局長は、それぞれの地域に責任と愛着を持ってやっているところですので、今お話があったことをそれぞれに伝え、自らが、それぞれの地域の将来ビジョンをどのように考えるか、しっかり考えてプレゼンをやるように、私からも指示をしたいと思っております。ありがとうございます。

次は、北海道木材産業協同組合連合会 松原代表理事会長、よろしく願いいたします。

● 北海道木材産業協同組合連合会 松原代表理事会長

大変詳しい名前を呼んでいただきありがとうございます。松原でございます。北海道はなんと言いましても林業王国と言われているわけですので、多分、命名に関わった松浦武四郎さんが活躍した時代には、鬱蒼たる森林の大地であったと考えております。かつて、ここから出てくる優良の北海道産広葉樹というのは、世界に羽ばたいていきました。特に合板につきましては、外貨を稼ぐ優良企業ということで、北海道合板協同組合は北海道知事さんからの表彰を受けたことがございます。そのような業界でございますので、ここにも書いてありますように、これからはさらなる道産材の拡大、それから木育イベントの実施、これを実施継続していきたいと思っております。特に「木育」と

という言葉については、これは北海道が発した全国に通用する言葉となりました。その意味では大切に使っていきたいと思います。今回も、先ほどプロジェクターで映されました「木育ひろば in チカホ」、それから道民の森づくりネットワークの集い、これは札幌市で行われております。そして最近は、道産木材のPR動画をCM放送や地下鉄で広告といたしまして毎年出しているわけでございますけれども、これらに、先ほど紹介ありました北海道 150 年の事業名を冠することによりまして、また、一生懸命地域の皆さんに、この事業を周知して、拡大していきたくて考えております。以上です。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございます。道産木材の需要の幅はどんどん拡大しておりますので、是非、共に事業を高めていきたくて思います。よろしく願いいたします。

次は、北海道文化団体協議会 阿部会長、よろしく願いいたします。

● 北海道文化団体協議会 阿部会長

北海道文化団体協議会の阿部と申します。15、16 番目について説明させていただきます。

1 つは、平成 30 年度の道民芸術祭。14 の振興局にそれぞれ文化団体協議会がございます。そこで開催しております舞台公演、展示会、文芸大会、研修会等を、道民芸術祭事業として開催しますが、全て「北海道みらい事業」として開催したいと考えております。その中に、特に、未来への文化を継承する子どもたちの文化活動を必ず加えて、そういう意義づけをしたいと考えております。

もう一つ下の「北海道 150 年アート展」につきましては、まだ未定の部分がございますけれども、北海道立美術館等と重なる部分がありますので、これから、道の美術館、それから教育庁と打合せをして、できるだけ実施に結びつけたいと考えております。以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございます。文化面でも、しっかりと北海道 150 年をアピールするような事業をよろしく願いします。

それではご本人ご出席最後の、北海道遺産協議会 石森会長、よろしく願いいたします。

● 北海道遺産協議会 石森会長

北海道遺産協議会の会長を務めております石森でございます。スライドでもご紹介いただきましたが、私ども協議会では、北海道遺産の追加選定をこの 150 年事業の一環として行いたいと考えております。皆様ご存じのように、北海道遺産は 2001 年並びに 2004 年、2 回に渡りまして道民参加のもとで選定を行い、現在 52 件が選定されております。ただ、各地で現在地方創生ということで、地域を元気にしたいという取組みの中で、地域の未来に受け継いでいくべき様々な遺産を北海道遺産として追加選定できないのかという意見も数多くいただいていることなどから、ただ今、協議会の理事会と事務局の方で検討を進めていますが、来年いくつかの新たな北海道遺産を選定して、公表したいと考えているところでございます。この事業につきましては、今回の記念事業のパートナーでもありますイオン北海道様、マックスバリュ北海道様及びサッポロビール様の 3 社にご協力をいただきまして、様々な事業のプロモーションを展開する予定でございます。皆様方におかれましても、是非ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。以上であります。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございます。北海道遺産の拡充、大いに期待をさせていただきます。

それでは続きまして、代理でのご出席の皆様方のうち、予めお願いをしております数名の方にご発言を願います。まず、北海道経済連合会の菅原事務局長、よろしく願います。

● 北海道経済連合会 菅原事務局長

北海道経済連合会の菅原でございます。出席を予定しておりました会長の高橋が欠席となりました。大変申し訳ございません。私から代わりに発言をさせていただきます。

まず当会は、昨年6月の検討会議の立ち上げの段階から事務局として参画をさせていただいております。これほど多くの企業・団体の皆様にパートナー事業、あるいはみらい事業として参画していただけるということで、大変感謝申し上げるところでございます。

さて、道経連としての取組でございますが、本年度の事業計画に、北海道命名150年記念事業に向けた事業の周知、気運の醸成、ということを盛り込んで活動しております。そちらにつきましては、資料の2の2から6というところに記載をさせていただいておりますけれども、この中から4について、まずちょっとご説明をさせていただきますと、今年5月に当会の常任理事会、それから理事会合同会議というものを開催しておりますけれども、三重県の松浦武四郎記念館の山本命さんという主任学芸員、これは知事が今年1月に一緒に参りましたときに説明いただきました、大変北海道に詳しい主任学芸員の方ですけれども、お越しをいただきまして、「松浦武四郎が愛した北海道」と題しまして特別講演会を開催しております。また、その内容につきましては、私どもの広報誌に掲載いたしまして、会員の皆様全員に周知を図ったところでございます。

また、5番目のところでございますが、6月には定時総会の場で、松浦武四郎のパネル展を開催いたしました。こういったことを通じて、会員の皆様の関心を深めるという取組をさせていただいております。引き続きこういった取組は今後も行っていまいります。

それから来年の話でございますが、6のところでございますが、若者が北海道の将来に魅力を感じていただけるような取組にしたいということを考えております。学生を対象に、ICTを活用したスマート農業や、航空宇宙産業、そういった先進的な道内で取組をしているような現場に、若者の皆さんに行って触れていただく、そういったことができないかということで現在、企画検討中でございます。以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。次に、北海道女性協会の宮田常務、よろしく願います。

● 北海道女性協会 宮田常務

本日、中田理事長が出席できませんので、代わりましてご説明をさせていただきます。ナンバー12の事業をご覧いただきたいと存じます。私ども女性協会におきましても来年度、150年の節目を迎えるに当たりまして、北海道の歴史や文化を見つめ直すことにより、新たな北海道づくりにつなげていくことが大変重要であると認識をいたしておきまして、この資料にも記載されておりますとおり、昭和49年度から開催しております「女性大学」におきまして、北海道の歴史や文化に焦点を当てた講座を設定しているところでございます。女性大学は毎年度、1期・2期に分けまして、それぞれ10講座が組まれているところであり、毎回200名程度の方が受講されておられます。本年度は、北海道150年事業応援

企画に登録をいただきまして、5月から8月までの第1期におきましては、「いま、ここ札幌でアイヌの歴史と文化を学ぶ」と題しまして、北海道博物館の小川学芸副館長に講演をいただき、大変好評を博したところがございます。また、9月から11月まで開催予定の第2期におきましても、「古地図でたどる北海道史—北海道島が描かれていく過程—」と題した講座を設定しているところがございます。この間、女性大学のリーフレットに150年事業のロゴマークを使用させていただいたり、150年事業のホームページで女性大学をご紹介いただいたことにより、150年事業への関心も高まっておりますことから、来年度におきましては、特に7月から8月にかけての150年ウィークの期間中にこのような講座を設定する方向で、現在、関係者との調整を進めているところがございます。以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。北海道倶楽部の岡村理事長、よろしく願いいたします。東京からわざわざ、誠にありがとうございます。

● 北海道倶楽部 岡村理事長

私どもはパートナー事業の登録を行っておりませんので、このリストには載っていませんが、既にいろいろなことにお役に立てそうなことを東京でやっております。私ども毎月「北海道NOW」という広報誌を出しているのですが、これに毎月こういう「150年事業への参加協力について」という広告を出してまして、今まで8回出しています。

それから、この北海道のバッジをいただきましたが、このロゴマークは既に私どもの印刷物には、みんな入れています。今日気がついたのですが、名刺にも入れるべきかなって考えております。

それから、毎年9月から10月初めにかけて、東京の代々木公園で「北海道フェア」というのをやっています。毎回知事もお出ましいたしていますが、この時期に合わせて全国紙3誌に折り込み広告を出しています。近隣の12万世帯に配布しているのですが、これによって、例えば去年ですと40万人くらいが集まっていただいて、盛況のうちに終わっています。雨が降らなければこのくらいは集まるのですが、雨が降るとちょっと、がくと落ちてまして半分くらいになる可能性があるのですが、そういうことでございます。

それから、もう大分前からこの広報誌に、北海道内の市町村を紹介しています。今、紹介し終わったのは根室振興局エリアと渡島総合振興局エリアですが、これらをこの1冊にして出しています。これ、次から次に出していくつもりでありますけど、ご興味のある方いらしたら差し上げますので、おっしゃってください。この中には、市町村の歴史や概要、それからふるさと納税の現状だとかいろいろなことが載っていますので、この本について150年事業の事務局の方に何かお使いになれる方法があればということで問い合わせているようでございます。以上です。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。代々木のフェアっていうのはものすごい人が来る、東京でも人気のイベントでありまして、是非そういう場も活用しながら、PRのお願いをいたします。

最後、道教委の佐藤部長、よろしく願いいたします。

● 北海道教育委員会 佐藤教育部長

北海道教育委員会です。教育長の柴田は所用につき欠席でございますので、代わりに説明をさせてい

たきます。

道教委では、今日、北海道 150 年に関連する 2 つの取組を紹介させていただきます。一つ目は北海道版道徳教材の作成でございます。松浦武四郎など、本道にゆかりのある偉人を題材といたしました小学校高学年用の、北海道版道徳教材「きた ものがたり」というのを作成いたしました。本年 5 月にウェブ上で公開をしたところでございます。この教材につきましては、各学校におけます道徳の授業において、積極的に活用するように指導をしてきておりまして、今年度新たに制定されました「北海道みんなの日」におきましても本教材を活用した教育活動が展開されたところでございます。年度内には中学校版の「きた ものがたり」を作成する予定としております。

二つ目でございます、本道の歴史や文化、産業等に関わる映像資料等のデジタル化についてでございます。江別市にある道立図書館が所蔵いたします本道の各地域の発展の歴史や、アイヌ文化などの貴重な映像記録を次代に継承するという目的で、現在デジタル化を進めているところでございます。これを北海道 150 年事業やふるさと教育などに幅広く活用するということといたしております。これらの他にも、道立図書館の資料展示「北海道の 150 年を振り返る」ですとか、帯広美術館の方では特別展「松浦武四郎」を開催するなど、150 年にちなんだ取組を実施する予定としておりまして、道教委といたしましては、こうした取組を通じて子どもたちが北海道に誇りと愛着を持ち、先人の偉業を受け継ぎ、未来につないでいくことができるよう、ふるさと教育の一層の充実に努めて参りたいと考えております。以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。この副教材は、全ての、公立だけではなくて、私立の小学校の高学年の子どもたちにもいくのでしょうか。

● 北海道教育委員会 佐藤教育部長

ウェブで公開をしておりますので、どこでも入手できるような形にはしております。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

是非、公私を問わず、全ての子どもたちが見られるように工夫をお願いします。

● 北海道教育委員会 佐藤教育部長

わかりました。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。それぞれ大変、創意工夫をこらし、また熱意を持って事業の準備を進めていただいておりますこと、大変ありがたく思う次第であります。

それでは次に、議事の「3 その他」について、事務局から説明を願います。

● 赤塚北海道 150 年事業室長（事務局）

今後の会議の開催日程についてでございます。来年度の事業計画予算等をご審議いただく総会を、年内 1 2 月中旬を目途に札幌市内で開催する予定としてございます。日程を決定次第、ご案内をさせていただきますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

ありがとうございます。時間も押しておりますが、最後に全体を通じてご発言があれば。
(名和総長から挙手あり) 名和総長、よろしくお願いいたします。

● **北海道大学 名和総長**

北海道の150年、本当に素晴らしいことだと思っております。ただ、北海道が開拓されたのは札幌だけではなくて、いろんなところから開拓されていった。松前藩のこともありますし、いろんな各地でのそういったものがこの150年の中でどうやってうまく反映されるかということが非常に大切でございます。今回は札幌市の方が出ておられますが、帯広ですとか、例えば岩見沢も頑張っている。当然、函館っていうのは非常に古い歴史を持っております。そういった歴史を持って、しかも頑張っているところの市長の方々が、こういったものに参画していただいて、もっと宣伝する、道民にどう伝わるかっていうことが非常に大切だということ考えております。こうしたものを、決して自分たちだけがやるわけではなく、道民のためにやっているということですので、是非、周知徹底をよりよくしていただきたいと思いました。

あと、私もこの間反省したんですが、サッポロビールのホールディングスの社長に先週会った際にびっくりしたのは「ワインのブドウを作ったのは実は札幌近辺が一番最初で、うまく育たなかった、それを持っていったのが甲府で、甲府でワインができた」ということを教えられました。勉強不足を非常に反省しましたが、まだまだ知らない歴史が大分あるようでございます。この150年の事業は、そういった意味での北海道の歴史を振り返る非常にいい機会だと思いますので、是非、各企業にある、そうしたデータもいただいて、振り返る必要があるかと思っております。この2点、よろしくお願いいたしますと思っております。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

はい、わかりました。1つめ、市町村のそれぞれの市役所、役場、首長の方々に積極的に関与していただくこと、今までも私ども道庁からやってみてありますが、さらに、総長のご指摘も踏まえて、しっかりともっともっとPRをさせていただきたいと思っております。それから、私どもが知らない北海道の歴史の発掘、そのための企業の皆様方、あるいは各地の団体の方々のご協力、これも求めていく。事務局、いいですね。今のご指摘、しっかりと受け止めさせていただきます。ありがとうございました。

それ以外は、よろしいでしょうか。(挙手あり) 加藤理事長、どうぞ。

● **北海道アイヌ協会 加藤理事長**

これだけ一つ。先ほど、道教委からの話、子どもたちはものすごく重要だと私は思う。何が重要かと。一つの例を挙げると、例えばアイヌの「夷酋列像」ってありましたよね。あの、着物を着て、あの着物だけを展示しても、背景に何があったかは何も語られていない。背景はものすごく重要だ。先ほど、ドイツの大統領の話をしましたけれども、盲目にならないように、子どもたちに、ものすごく重要なことであるということ、背景も含めて伝えてほしい、ということをお願いしたいと思っております。以上。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

教育委員会、いかがですか。

● **北海道教育委員会 佐藤教育部長**

ご指摘を踏まえて、しっかりと対応したいと思います。ありがとうございました、

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

教育長、それから道教委の委員の皆様にも、そのようにしっかりお伝えください。

● **北海道教育委員会 佐藤教育部長**

伝えます。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

それ以外、よろしいでしょうか。

それでは、長時間にわたりましてご協力をいただき、ありがとうございました。北海道 150 年事業は、道民が一人一人の立場でふるさと北海道に誇りを持ち、また、国内外の方々に改めて北海道の位置づけ、北海道の素晴らしさを感じていただく取組であります。

日々、北海道の経済・産業、研究、暮らし、文化など、様々な分野で北海道を牽引しておられる皆様方は、いわば、北海道 150 年事業の推進力のお立場でございます。これからも引き続き、ご理解ご協力を心からお願いいたします。最後は事務局に返します。

● **佐藤総合政策部長（事務局）**

皆様、大変お疲れ様でございました。

今後、皆様とともに検討、準備を進め 12 月の総会に向けて、「事業計画」の策定作業を進めることといたします。記念式典や 150 年ウィークなどに係る具体の検討につきましては、適宜、共有させていただきたいと思っております。次回の役員会及び総会の日程につきましては、改めてご案内を申し上げます。

北海道 150 年に向けて、事務局も精一杯取り組んで参りますので、ご協力のほどよろしくお願いを申し上げます。

以上をもちまして、第 1 回役員会を閉会いたします。ありがとうございました。